

校長室だより

令和2年12月15日 No32

大田区立入新井第五小学校

校長 岡野 範嗣

●●●● 学校ではこんな困りごと・・・ ●●●●

寒波の襲来により、今朝の東京は気温が2℃と表示されていきました。今年一番の寒さということで、登校してくる子どもたちもとても寒そうです。

さて、今日のタイトルにある「困りごと・・・」についてお話しします。

学校は、このコロナ禍における対策として、教室の窓を開けて、常に新しい空気が入るようにしておかなければなりま



せん。11月までは比較的暖かい日が続き、あまり気にならなかったのですが、12月に入ってからは、授業中教室に入ってくる冷たい風が、だんだんと身に染みるようになってきました。しかし、校庭側の児童は直射日光が常に当たるため、まぶしくて授業になりません。そのためカーテンを閉めようとするのですが、学校のカーテンは濃いクリーム色で



今までの、クリーム色布地カーテン

遮光率が高く、今度は教室中が薄暗くなってしまうようです。当然、廊下側の児童は寒くてたまりません。加えて廊下と教室の境にある扉が開いているわけですからとてもとてもいられたものではありません。さらに、北風の吹く日はカーテンがバタバタと大暴れし授業にも影響します。これが、一日中続くわけですから、子どもたちにとって、とても厳しい学習環境と言わざるを得ません。実は、この



新規購入 厚手のレースのカーテンのおかげで、天井・黒板の明るさも全然違います。

ことを訴えてきたのは6年生と担任で、「校長先生、今ある布地のカーテンを、少し厚めのレースのカーテンにしてもらうことはできませんか？」と相談に来たのです。そこで、業者さんと事務主事の協力を得て、レースのカーテンをでつけることにしたのです。

写真でもわかるように、校庭側の児童は日差しのまぶしさが緩和され、教室全体は明るく暖かさも確保できるようになりました。風はレースを素通りしますから、今までのようにカーテンが暴れることもありません。これから、1・2月はさらに気温が下がります。勿論暖房はつけて授業を行います。換気についても十分に行い、コロナウイルスへの対策を十分にいたうえで、気持ちの良い学習環境を整えてまいります。カーテンは3階から、順次つけていく予定です。

●●●● 応募してみたら、球根が400個も当たりました ●●●●

「花いっぱい運動支援助成」というものがあったので応募をしてみたところ、チューリップとヒヤシンスの球根が400個も当たりました。早速、来年入学してくる新1年生と進級する子どもたちに喜んでもらうために、主事さんが丁寧に植えてくれました。どうしても、ボールが当たって、新芽をだめにしてしまうため、これも主事さんが防御ネットを張り巡らせてくれました。

あまり心が明るくなる話題がない今だからこそ、来春には学校を花でいっぱいにして、学校生活に潤いを与えたいと考えています。校長室前から2年生の教室前まで、ぎっしり植わっています。



●●●● 気持ちがほっこり明るくなりますね。 ●●●●



1年生が、休み時間にイチョウの葉を集めてお花を作ってくれました。冬が来る前には、こんな楽しみ方もあるんですね。いろいろな先生に「ハイ！お花」といって渡す1年生。気持ちがほっこり明るくなりますね。休み時間というと、今の流行は縄跳びです。毎日校庭に出ていると、一人一人のその習得の早さに驚かされます。ついこの間まで、「できないできない」とごねていた子どもが、今は友達の前で得意になってその技術を披露しています。休み時間は、教員室前と朝礼台前が縄跳び練習場になっていて、先生を見つけては頑張りカードにサインをねだってきます。子ども



のできた時の嬉しそうな顔は、やはりいつ見てもよいものですね。私も、補助輪なしで初めて自転車が乗れるようになったとき、父親を外に連れ出して、「見ててよ！見ててよ！！」と言って、乗って見せたことを、今でも鮮明に覚えています。